

# FLORA KANAGAWA

1. JAN. 1985

神奈川県植物誌調査会ニュース 第18号

231 横浜市中区南仲通 5-60 神奈川県立博物館内  
神奈川県植物誌調査会 振替口座 横浜3-10195  
TEL. 045-201-0926

No. 18



ヨコハマダケ *Pleioblastus Matsunoii* Nakai

—横浜の名をもつ唯一の植物—

おそらく横浜の名を冠する唯一の植物であろうヨコハマダケは、明治42年、当時の神中（現希望ヶ丘高）教諭、松野重太郎先生によって発見されたものである。そして昭和9年、中井猛之進博士が、久内清孝先生のとられた生態写真を付して、植研Vol. 10, No. 5に学術的記載をされて合法名になったといわれる。

ヨコハマダケの発見地は横浜市西区西戸部町（字池の坂）であるが、植物自体も現地でいまだに健在である。しかもかなり広範囲に点々と小群落がある。西戸部町付

近を歩かれる方、気をつけてタケを観察されるとよい。

先年亡くなられた大谷茂先生の報告によれば、アズマネザサとメダケの中間型といえるものだと述べておられる。一見メダケのようであるが、葉が質厚く硬く、メダケのように垂れない。そしてアズマネザサよりも鋭くどがった葉をもっている。

発見者松野重太郎先生のご子息啓三氏は、このタケをご自宅の川和へ移して記念碑を建立し、その保存につとめておられる。

（村上司郎）

(MIN) 南区別所にはナライシダ、ジロボウエンゴサクがあった。良い自然環境の場所がない南区内で永田台はよい処である。本年はここへ何度も行きヒカゲスゲ、モエギスゲ、アゼガヤツリ、ヤマスカボ、オオミヅソバ、ボントクタデ、チダケサシ、カノツメソウ、ツクバキンモンソウを見た。特にツクバキンモンソウは豊産し南区では中里の数本と共に貴重である。

中里の同じ場所にはオカスミレ、ニオイタチツボスミレが残っていて30年前のフロラ調査の時の名残りである。ここにはかつてキッコウハグマ、サジガンクビソウ、ヒ

メガンクビソウ、ウラジロ、ハシゴシダ、アブラガヤがあったが、現在は絶滅してしまった。堀ノ内の宝生寺の山も何回となく足をはこぶ処である。オオバグミ、シラスゲ、オオアオスゲ、ミツデウラボシなどがある。ヤマネコノメは絶えた。井戸ヶ谷の乗蓮寺には大カヤがある。ここにはイヌザクラが一本とゴヨウアケビが多い。庭内にあるイヌエンジュはかつて中里の丘陵上にあった自然生の残りであろうか。相武国境上にあったヒトツバハギは南横浜バイパスの工事でなくなった。時の流れを感じる調査行である。

(長谷川義人)

横浜・川崎、県西追加植物 (鶴見高校より)

担当地域が横浜・川崎から県西、県北まで広がってからもう3年になります。この間、鶴見高校の森茂弥氏と2人で足を運んだメッシュはTAM、TAK、NAH、SAI、KAW、MI-1、2、KOH、KAN、TSR、AS、FUJ-1、2、SAG、TS-1、2、3、SH、YA-1~8、MIA-1、2、3、HAK-1、2、4、5、6、OD-1の36メッシュに達しました。しかし、どのメッシュの調査も中途半端で収拾がつかなくなってきました。以下1984年版目録以後追加されたものを報告します。

\*横浜・川崎ブロック

ハネガヤ

1980年10月、横浜市緑区新治町で採集しましたが、目録では落ちてしまいました。最近、同区长津田町の雑木林内で多数見かけましたので結構あるのかもしれない。よく似たヒロハハネガヤはYA-4の明神峠~湯舟山の稜線で採集しています。

ハトノチャヒキ

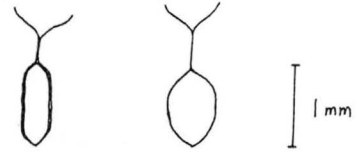
帰化植物。金沢区担当の山田文雄氏が同区内で採集されました。花序の枝が短く小穂が密集してつくのが特徴です。

ホシナシゴウソ

ゴウソの果胞に乳頭状突起がない一変種です。同一場所に生えていた母種よりも一回り大型でした。1984年6月9日、川崎市多摩区黒川の廃水田で採集。

シロガヤツリ

横浜市鶴見区二ツ池で採集。海老名と横須賀で採集されていますが、横浜でははじめてです。アオガヤツリの未熟なものと同違いそうですが、小穂や鱗片の大きさ、そう果の形で区別できます。



シロガヤツリ  
の果実

アオガヤツリ  
の果実

タヌキモ

今春、鶴見高校生物部の生徒が川崎市多摩区黒川の廃水田で採ってきました。自生のものか、誰かが投げ込んだものか疑問もありますが、秋になってもよく生育しており、夏には花も咲いたようです。

\*県西、県北ブロック

オオスズメノテッポウ

帰化植物。山北町篠沢(YA-5)の路傍で採集しました。道路の法面の緑化につかわれたものに混っていたのでしょうか。外観はオオアワガエリに似ていますが、小穂はセトガヤに似ています。

イブキスカボ

丹沢か箱根にあるはずだと思っていましたがなかなか見つかりませんでした。1984年7月、山北町世附の明神峠(YA-4)で採集しました。

フタヒゲオオガニツリ

綿化植物。オオガニツリの一変種。オオガニツリは下方の小花のみに長い芒がありますが、これには二小花ともに長い芒があります。1984年8月、城山町雨降で採集。

アオバズゲ

1984年5月27日、YA-2の畦ヶ丸～白石峠間の稜線で採集。

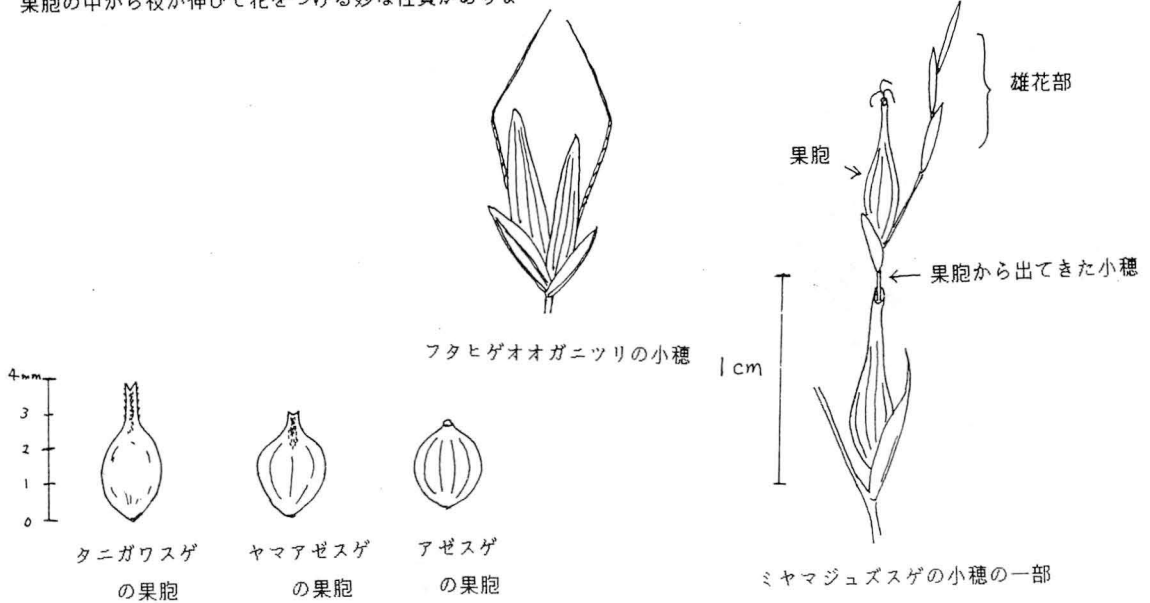
ミヤマジュズゲ

果胞の中から枝が伸びて花をつける妙な性質がありま

す。山北町世附(YA-4)の明神峠直下の一の沢で採集。

タニガワズゲ

アゼズゲやヤマアゼズゲに似ていますが、長い地下茎はなく叢生します。果胞も嘴が長く、先端が2裂します。城山町穴川と箱根仙石原(HAK-1)で採集しました。ヤマアゼズゲも仙石原の早川に群生していました。



ヒメゴウソウ

箱根仙石原(HAK-1)と芦ノ湯(HAK-4)で採集。

コシンジュガヤ

箱根仙石原湿原(HAK-1)で採集、個体数は少ないようです。

ヌマハリイ

1984年6月、箱根仙石原(HAK-1)で採集。

イトテンツキ

花序の枝が発達しないので、外観はハタガヤに似ていますが、小穂の性質はイトハナビテンツキと同じです。1983年9月、箱根仙石原(HAK-1)のゴルフ場で採集。

ヒメホタルイ

箱根の精進池(HAK-4)とお玉ヶ池(HAK-5)で採集。昨年秋には増水して挺水植物の採集は不可能でしたが、今年は好条件でした。

ルイヨウショウマ

1984年9月24日、YA-1の甲相国境稜線大柵の頭付近の樹下で採集。来年は花の時期に行つて写真を撮りたいと思っています。

ナンタイブシ

YA-1の甲相国境稜線で採つたヤマトリカブトの中に1点混っていました。花梗に全く毛がないことで区別します。

ウメモドキ

1984年7月、山北町世附の明神峠(YA-4)で採集。小さなピンクの花を咲かせていました。枝に細毛がはえているのでウメモドキです。無毛の変種イヌウメモドキはHAK-2で記載されています。

アケボノスミレ

1984年5月、箱根明神ヶ岳(HAK-6)で採集。

サクラガンビ

1983年9月、箱根明神ヶ岳(HAK-6)で採集。

アズマカモメヅル

コバノカモメヅルの白花品。箱根お玉ヶ池(HAK-5)で採集。

エゾシロネ

1983年9月、箱根芦ノ湯(HAK-4)で採集。

ホソバノヨツバムグラ

湿地に生えるGalium属。箱根仙石原(HAK-1)、芦ノ湯(HAK-4)、お玉ヶ池(HAK-5)で採集。

ヤナギタンポポ

1984年9月23日、YA-1の高指山の草原で採集。

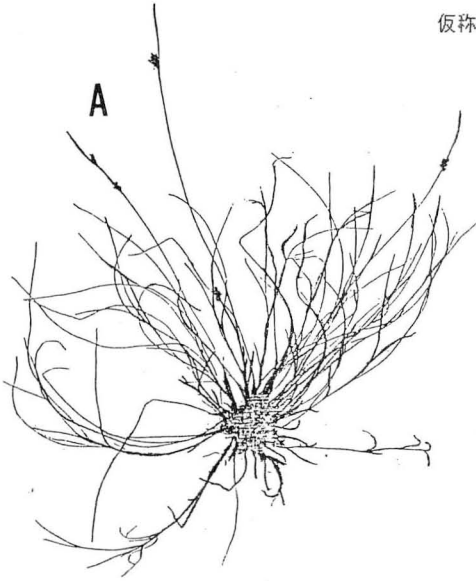
ヒメヒゴタイ

YA-1の高指山、YA-8の高松山の草原で採集。

合同調査の矢倉岳(MIA-1)でも採集されたそうです。

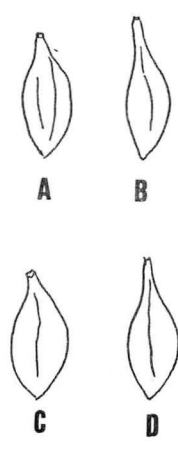
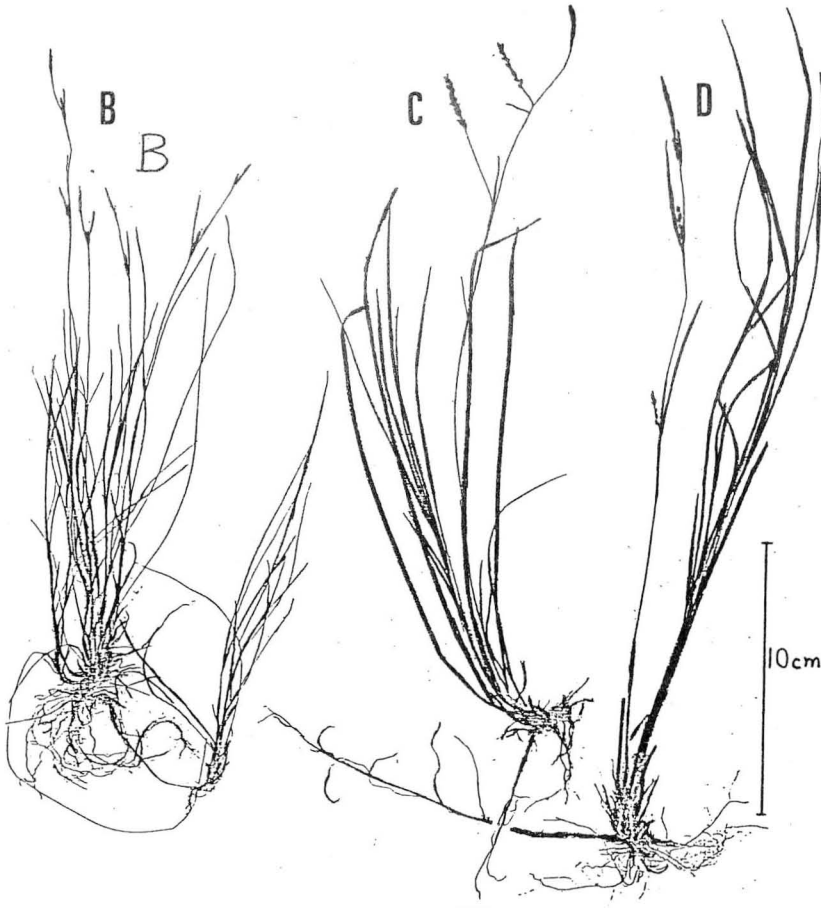
(勝山輝男)

仮称ホソバゴンゲンスゲ



丹沢の主稜線にあるイトスゲは葉が扁平で幅1mmあり、いわゆるイトスゲの葉が幅0.2~0.4mmで内側に巻いているのと異なります。いろいろと検討したのですが、うまく合うものはありませんでしたので、仮称ホソバゴンゲンスゲとして仮目録に載せてあります。大きさはイトスゲとゴンゲンスゲの中間で、果胞の嘴が長いことや花梗が伸長せず苞葉が長いことなどはオオイトスゲに似ています。

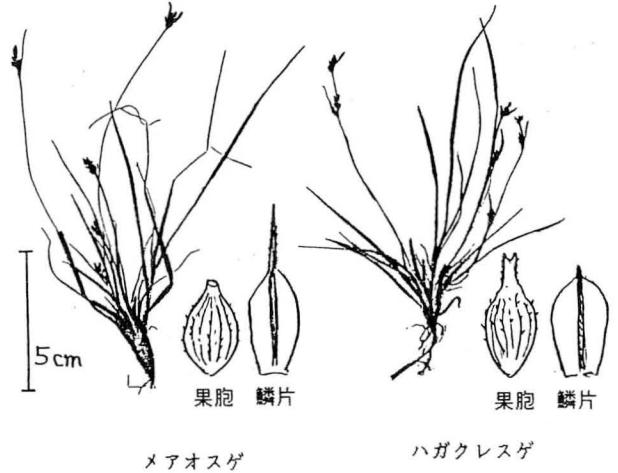
(勝山輝男)



- A: イトスゲ
- B: ホソバゴンゲンスゲ
- C: ゴンゲンスゲ
- D: オオイトスゲ

丹沢産のハガクレスゲとメアオスゲの区別がつかず、すっきりとしませんでした。今夏、富山県や長野県で得たハガクレスゲと比較してみました。その結果、丹沢で採ったどちらともつかない標本中にハガクレスゲは1点だけでした。果胞にまばらに毛が生えているのでケハガクレスゲです。ハガクレスゲは本来針葉樹林帯のもの、丹沢には稀なものと思います。ハガクレスゲでは雌小穂が根際だけでなく茎の中部にもつき、果胞の嘴が長く、先が鋭い2歯となり、雌花の鱗片に長芒がなく凸端に終わることなどが区別点です。

(勝山輝男)



横浜・川崎ブロックの仮目録を見ながら

いま私の手元に、横浜・川崎ブロック22区採取植物目録がある。この記録をもとに、いま横浜・川崎といった大都会でどのくらい植物が記載されているかざっと調べてみると、149科1310種という数字がでた。そのうち採取された種類の最多の区は多摩区で841種、金沢区の693種がこれに次ぐ。奇しくもブロックの北と南の端である。少ないのは鶴見区と神奈川区で、それぞれ177、191種である。どの地区も一応全種数の3分の1、400種程度が記録してあればまあまあと思われるが、この水準に達しないのが8区あり、責任者として申し訳ない思いでいっぱいである。とくに戸塚区あたりに力を注がねばという気がする。毎年同じいいわけばかりで申し訳ないが、来年またがんばりますである。

縦軸にカタカナの植物名、横軸に22の地区名、それにKの字が虫食い状にはめこまれた一見無味乾燥な目録だが、ページを繰ってささいに検討すると、ちょっと時刻表を見ているようで興味が尽きない。もちろんこの目録作成にあたる関係者のご労苦に対して感謝しながらである。

種の多い科はイネ科が筆頭で143種、次いでキク科の122種と続く。それぞれ単子葉、双子葉植物の進化の頂点に立つ(?)科である。もうひとつ種類の多いことで知られるラン科は、16種しか記載されていない。

目録には、大雑把にみて当ブロック全域で見られる広汎種と、分布の少ない稀産種、その中間とあるわけだが——もちろんブロック内に限っての話である——科によ

って多少の特徴があるようだ。たとえばラン科は記載が16種、ところがネジバナだけが広汎種で、他は散発的な記録しかない。ヤナギ科も同様で、12種中イヌコリヤナギを除き、他の記録はばらついている。シバヤナギなどももう少し記録があってもよさそうに思えるが。

大きな科、イネ科は前述した通り143種、このうち広汎種と思われるものが約40種ある。これに対し、次のカヤツリグサ科は89種のうち8種ほどしかない。これは荒地や路傍などいたるところにはびこっているイネ科植物に対し、主要な立地が湿地というカヤツリグサ科植物との差が数字に表われた、と考えるがどうであろう。そういえば当ブロックの市街地といわず郊外といわず、まず水田や湿地がつぶされている現状と無関係ではなさそうである。

では今度は少しキク科に当ててみよう。記載されているのは122種、広汎種と目されるもの約45種、そして1~2ヶ所しか記載のない稀産種が約41種、残り38種が中間型といえよう。そして帰化種と思われるものが約42種。偶然の一致だが、いずれもキク科全種数の約3分の1という数字になっている。

当然あると考えられる植物なのに未記録の地区があり、眺めていると気になる。こうした種はこれから重点的に採取せねばなるまい。有名なブタクサなど、緑区-2、戸塚区-2、西区が空いている。ハルジョオンは戸塚区-3と南区、ノボロギクは旭区と戸塚区-1、ハキグメギクは幸区と戸塚区-3がそれぞれ空白である。もっと

もこれらは未整理の標本中にはいっているのかも知れない。

先日県博で大場先生から各植物別の県下の分布図をコンピュータで片端から見せられた。これを見るとそれぞれの種の県下における分布状態が即座につかめると同時に、どこが欠けているかも一目瞭然となる。改めてコンピュータの威力に感嘆したことである。

帰化植物などでも、たとえばホウキギクなどどこにもあるが、近縁のオオホウキギク（川崎区のみ）、ヒロハホウキギク（横浜市内では磯子区、戸塚区-3、保土ヶ谷区のみ）などまだ少ない。センダングサ類も、アメリカセンダングサやコセンダングサは広汎種だが、コバノセンダングサは磯子区のみ、センダングサは金沢区、タウコギは多摩区のみと極端に少ない。シロバナセンダングサは22区中7区に記載があるが、もう少し多くの区に出現してもよいような気がする。

最近私が少し興味をもっているブタナやアメリカオニ

アザミなどは6地区しか記載がないが、これももう少しありそうな気がする。同じ帰化種のヒレアザミが旭区、イガヤグルマギクが金沢区と各1ヶ所しかなかったのも意外であった。また昭和初期、箱根で初記載されたマルバフジバカマが多摩区と瀬谷区に入っている。生育地を一度見てみたいものである。チチコグサモドキは全地域で見られる帰化品だが、変異が多いようで、帰化植物図鑑にないウスベニチチコグサを分けて、横浜南部地区を中心に記載がある。平塚市で記載されたタチチチコグサも、横浜・川崎市内で見つかるかもしれぬと期待している。

こんな感想めいたものをダラダラと書きならべてもきりがないので、もうやめることにするが、ありようは、当ブロックの方々に原稿依頼をしておきながら、自身は何も書かぬというわけにいかぬので、こんな駄文で書きさぐ次第。少しも勉強していないということを書き出したようで、気がひけるばかりである。

（村上 司郎）

#### 保土ヶ谷区より

中高年女二人連れで採集を始めてから5年経ちました。保土ヶ谷区全域を隅なく歩き尽くす事は出来ませんでした。身近かな所から始めて、入り易い自然の多く残っている場所7、8ヶ所に絞って、四季の変化毎に幾度となく足を運び、これまでに提出済みの標本は約720点に達しました。

当地区担当の吉川アサ子さんは、抜群の記憶力、確実且つスピーディな観察力と、するどい勘、加えて勉強熱心と、この作業に対する深い情熱の持主で、上記の720点も、採集から標本作成まで、すべてを一人で仕上げてくださいました。一時期彼女の御宅は、増築したての南向きの部屋を、古新聞の山、重し代りの電話帳の山が占領して、御家族の忍耐、御協力も大であったと思います。

大場先生、高橋先生に御多忙中御足労願って、御指導を仰ぎながら採集したのも貴重な経験でした。家々の間の細い道を通り抜け、割合にすんなりと入れた山（竹藪）で未採集のコウヤワラビ、リョウメンシダを、更に保土ヶ谷区では無理かもと云われていたクジャクシダを見つけ、それ等を手に意気揚々とついた帰路、山の出口で「この山に入るべからず」の立札を見つけ、ギョッとして早々に立去りました。足許ばかり鶺鴒の目鷹の目でさまよい、他家の庭に迷い込んで了い、出るに出不れず、家人に知られぬのを幸いに内から門を開けて脱出した事、失敗も数々ありました。

素人の目には限りがあり、愈々収穫もなくなったので、一日をかけての採集行は58年の春以後は一時休業になっており、その代り、博物館の補充調査をベテラン諸氏に混じってただ一人の御邪魔虫とは承知しながら、貴重な座席を占領して、その都度参加しております。

九月中旬の矢倉岳、頂上間近の明るい斜面に、美しいピンクの花をつけたコガンピの群落を見、その近くに夏草に埋れる様にひっそりと白い花をつけたムラサキを、大場先生が見つけれ、古く万葉の頃から歌に詠まれ今は少なくなってしまったこの花を、いとおしむ思いで眺めました。愈々撮影も終って一同輪になって見守る中、貴重な標本として丁寧に根ごと抜き取り、ある人は手帳に、ある人はハンカチに根の紫色を記念に染めつけました。

冬枯のこれからは、及ばずながら標本整理のお手伝いに精を出します。

（平松 俊子）

（訂正）

前号のカントウヨメナとユウガギクの果実の図、左右が入れ違っていました。お詫びいたします。右がユウガギク、左がカントウヨメナです。

サクラ並木で知られる柏尾川堤は、私にとって植物調査のための良きフィールドである。

初めて柏尾川のほとりを歩いたのは昭和34年で、この頃はまだフナの泳ぐ姿が見られ、堤防沿いに歩けばイヌゴマやツリガネニンジンなどが見られたが、だんだん姿を消し、柏尾川もその後は年を追うにつれて汚染の度合いがひどくなり、ついには悪臭を放つドブ川となってしまった。

その後「柏尾川に清流を取り戻す会」の運動などの努力があって数年前からヒゴイなどの放流も行なわれ、今ではヒゴイの泳ぐ川にまで回復した。

神奈川県植物誌のための目的を持って、柏尾川堤を初めて歩いたのは昭和54年4月であった。この年の記録を見ると、セイバンモロコシをはじめ、ワルナスビ、ピロードモウズイカ、アレチウリ、カキネガラシ、ツルドクダミ、ブタクサ、オオブタクサ、キクイモなど、私にとっては初めて見る帰化植物もあって、興味も加わり、この

地域を歩くのが大きな楽しみであった。

台風の来るたびに柏尾川は氾濫し、そのためかなり大規模な護岸の改修工事が進み、それに伴い堤防沿いの道も近年は急速に整備され、ここで見られた植生もまた大きく変わった。あれほど繁殖力を誇ったアレチウリが勢力範囲を縮小し、ワルナスビやピロードモウズイカ、ツルドクダミなどはすっかり姿を消してしまったようだ。

今でも旺盛な生育を見せているのは、キクイモやセイバンモロコシ、アレチマツヨイグサ、セイタカアワダチソウなどで、これからはこれらの帰化植物がどのような消長を見せるか、楽しみである。

以前に比べきれいになった柏尾川には、ヒゴイやフナの泳ぐ姿が見られ、水質の変化によって今まで見られなかった水草も、二種類以上の繁殖が認められた。こんどは長い竿を持って行き採集して来なくては、と思っている。

(林 辰雄)

#### 植物標本の整理

私達(平松、内藤、吉川)は、毎週木曜日の午前10時頃より午後4時、ときには5時頃迄かかり、県立博物館地下作業室に於て、各地より集められてきた植物標本の整理作業をお手伝いしております。また、海老名の方達も時々2、3名手伝っていただき、作業も順調に進められております。

作業の内容は、同定及びチェック済みの標本の中に入れてある神奈川県植物誌標本のカードを見ながら、新聞紙表面に、左下より採集地コード・植物名・フロラ番号の順に書込みを入れることから始めます。簡単なようでこれがなかなか手間がかかり、アオカモジグサがイネ科、アオスゲがカヤツリグサ科、はともかくとして、ヤシャブシがカバノキ科、クリがブナ科等、なかなかおぼえられず、そのうえ、カバノキ科は306、ブナ科は307とすぐには科目番号が出てきません。そこでアオイ科374、アオギリ科375、アカザ科320、と一目でわかるように科目番号早見表を作り、それを見ながら作業を進めています。

科目別番号の暗記は、親番号の科番号と、それに属する子番号になるとまったくのお手上げで、余りにも数が多すぎるからです。

番号付けのあとは、シダ植物・裸子植物・単子葉・離

弁花・合弁花と、大きく仕分けします。シダ植物、裸子植物は比較的数量が少なく差込みも楽ですが、離弁花は、300番のドクダミ科から始まって、396のミズキ科まで、タデ、キンポウゲ、アブラナ、ユキノシタ、バラ、マメ、セリ科等、大所帯を張る程の科目が多く、一番手間がかかります。そこで、間違わずに納めるには10番台ごとに分け、更に科目別に分けた上で、それぞれに付けられた番号の順に整理棚の中に差込んでいきます。

仕分け作業をして時々気のつくことに、変色した古新聞に切り抜き穴のあるものや、やたらと物書きを裏表にしたものを標本の差込みに使ってくる人もあり、それをその都度別の新聞紙と取り替えたりして、手間のかかる作業をしております。お陰で、作業効率は低下するし、新聞紙等の余裕もない時には作業が遅れるばかりで、やむを得ない場合はそのままにして処理しております。

少しも減らない標本の山を前にして、ため息も出ます。そこで、少しでも早く整理作業を進めていく上で、標本提出をされる皆様方をお願いすることは、大切な標本でもあり、永久に保存する貴重な標本となるものですから、新聞紙はできる限りきれいなものを使用して下されば、本当に有難いと思います。尚、採集地コード・植物名・フロラ番号等は明確に記入して下さるよう、仕分け作業

をする私達一同より、心からのお願いです。  
横浜・川崎地区の標本整理を一手に引き受けてこれ

た森先生と勝山先生の御苦労がわかり、改めて頭のさが  
る思いであります。

(吉川アサ子)

## 金沢区調査報告

金沢区から初めての報告を致します。5年前に調査会が発足した時、2年間を目標に採集するという事でしたので、山田文雄氏と私はお互いに電話で連絡を取りながら採集し、2年目位に2人の標本を突き合わせて良い方を残しました。この頃から横浜北部の鶴見高校の森先生、勝山先生の御指導を仰ぎ、同定及び標本の保管もして頂きました。1981年3月発行の横浜北部、金沢区、川崎市の仮目録に580点載せることができました。大半は山田氏の採集したものです。1982年3月には620点になりましたが、その後はなかなかかどりません。

金沢区の位置は、横浜市の西南の端にあり、磯子区、戸塚区、鎌倉市、逗子市、横須賀市に隣接し、東京湾にも面し三浦半島の付け根に当る所です。従って海岸性植物や内陸性照葉樹林も交るという特徴もあって種類も豊富な筈ですが、現在やっと700点位になった所です。

これまでに採集できたものの中から珍しい植物を少し紹介致します。

### 1. シラン

村上先生から、野島にシランの群落があるという話を調査を依頼されて、昨年花時に行ってみましたら、島の東部の研修所のはずれの崖上に紫色の花をつけたシランが群れていました。崖上には展望台があると思いますが、誰も行かれない所だから今も尚健在なのでしょう。その前に大道中学の南側の斜面でもかなり沢山の自生を見えていますし、白山道のトンネル付近の住宅地の崖でも見て採集しました。ここの株数は僅かでしたし、人目に触れる所なので、今はもうありません。

### 2. 珍しい帰化植物・ハナヌカススキ、シャグマハギ

2種とも森先生から珍しいと云われてびっくりしましたが、その後生えていたあたりを探してみても見つかりません。

### 3. 在来の植物で珍しいものの危機

コクラン、ミヤマウズラ、オオバノトンボソウ、ハンゲショウ、ヒメガマ、サイハイラン、クマガイソウ等々が、宅地開発の為に森林が伐り取られ、埋められてしまったと思われれます。

### 4. シダ植物

オリヅルシダ、ジュウモンジシダ、ツルデング、ヒロハハナヤスリ、ヒカゲノカズラ等は熊野神社付近で見つけました。ハイホラゴケは始め逗子高校奥の谷間で見つけましたが、地域が違って残念に思っていました所、熊野神社近くにもあり、その後、朝比奈切通し、鎌倉の光則寺裏山、東慶寺墓地等で見ることができました。

### 5. 海岸性の植物

フウトウカズラ、イタビカズラ、ヒメイタビ、ラセイタソウ、ホコガタアカザ、ツルナ、タイトゴメ、トベラ、ガクアジサイ、シャリンバイ、ハチジョウキブシ(エノシマキブシ)、オオバグミ、ハマボス、ネナシカズラ、ハマヒルガオ、オオムラサキシキブ、イソギク、ツワブキ等がありました。

以上、調査に参加して感じましたことを一寸書きました。

(内藤美智子)

## 大和市の植物概況

昨年4月から大和市の植物調査を担当したので、大和市の状況について簡単に述べる。

大和市は相模野台地上にあり、標高は90m~30m、北から南にむかって低くなる。その東境沿いを境川、西側に市内に水源を持つ引地川がそれぞれ南流して台地を刻み、狭い氾濫平地を作る。氾濫平地には水田がある。台地上は、昭和30年代から工場誘致が進められているので、工場の建設と住宅の建設により自然環境の変化が著しい。

大和市で相模野の面影の残っている地域を北の方からあげると(図参照)1旧境川がある下鶴間町公所、2相模原市に接する下鶴間町内山新開・中央林間、3下鶴間町山谷、4相模ゴルフ場につながる下鶴間町緑野、5深見城がある深見町城ヶ岡付近、6座間市に接する南林間町から西鶴間町にかけて、7東名高速道路をはさんだ深見町沖野付近、8引地川の水源地になっている上草柳町和泉の森・扇野、9上和田町上ノ原から三貫目、10上



和田町宮久保から谷戸付近、11上和田町中ノ原・下ノ原、12福田町若宮八幡宮境内などであり、なお、境川、引地川の段丘の斜面にも大部残っている（多く墓地がある）。また、大和市には、大和市長が指定者になる保存樹林の制度があって、期間を限ってではあるが自然をできるだけ残す努力をしている。現在保存樹林として指定を受けた場所が約 400箇所あり、市内の各地に散らばっている。

私が去年 1 年間で採集した植物は約 650種類あるが、今後の調査によっては 700種類を越すものと思われる。なかなか珍しいものがあり、次に 2, 3 の植物について簡単に記してみたい。

### 1. カラハナソウ（クワ科）

9月23日下鶴間町公所の境川の土手を歩いていると前方にある木に白いものが点々と見える。何かと思って近寄って見たらカラハナソウの花であった。あたり一面につるが伸びており、よく適応しているようである。県内では他に開成町にあるだけである。



### 2. ヤナギイノコヅチ（ヒユ科）

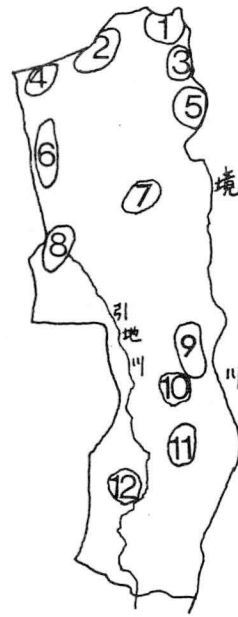
イノコヅチに似ているが葉は細長くて表面に光沢がある。林中に生え、若いうちは葉が赤紫色に色づいているものが多い。大和市内では内山新開、中央林間、上草柳の3箇所のみ見つかった。現在のところ県内では大和市だけに産する。

### 3. フタバアオイ（ウマノスズクサ科）

下和田町の農家の裏の崖っぷちに群落をつくって生えている。家の人は昔から生えていたと言う。市内ではここだけで、自生品か植えたものか不明である。

### 4. コゴメバオトギリ（オトギリソウ科）

黄色い花は割合大きく径 2cm ばかり、一見してオトギリソウと違ふ点は、葉が小さく（長さ 1.2 ~ 1.4cm、幅 2.5 ~ 4mm）節ごとに短い枝を普通は 2 本出して



るので、茎が込みあった感じを受ける。下鶴間町大和原のススキの原っぱの真中に群落をつくって生えている。欧州原産とのことであるが、どうしてここに生えているのか。恐らく工場の積み荷の中に紛れこんで来たのではないかと。県内では横浜市緑区に産する。

### 5. イスノキ（マンサク科）

福田町蓮慶寺下の関水氏宅の裏にイスノキがあるという話を大場先生から聞き行ってみた。同家は長屋門がある古い家柄で、イスノキの近くには推定樹齢 500 年（目通り 3.7m 大和市指定天然記念物）のケヤキが生えている。あまり太くはないが、昔からあったという話である。なお、ハゼノキもあったが、これはろうを取るために植えたものらしい。県内では横浜市金沢区に産する。

### 6. アキグミ（グミ科）

下和田町の大笹家の庭先に 1 本大きな木がある。昔はこの辺の野外に生えていて、子供の頃よく取って食べたという話なので一応仮目録に加えておいた。

### 7. ノジトラノオ（サクラソウ科）

大和市にオカトラノオがないかと探したらオカトラノオは見つからず、ノジトラノオの群落がつきみ野町の造成地の隅でみつかった。オカトラノオよりは葉が小さく毛が多いせいかな全体がくすんだ感じを受ける。県内では湯河原町、相模原市、厚木市に産する。

### 8. ハクウンボク（エゴノキ科）

上和田町三貫目の林中で見つけた。一応仮目録には加えておいたが、自生品かどうかは疑わしい。市内に

は庭木用に栽培している所もあり、逸出したものである。

9. ホシアサガオ (ヒルガオ科)

南米原産と言われるが上和田町に1株生えていた。花の形はマルバルコウに似て淡紅色のロート形、葉身は卵円形のものが多くいようだが大和市のものは3裂している。大和市にはマメアサガオもあるが、両者の区別点は花柄のイボ状突起の多少によるのが最も確実のようである。ホシアサガオはほとんどないが、マメアサガオは密生している。県内では秦野市、平塚市、横浜市金沢区に産する。

10. シモバシラ (シソ科)

下鶴間町内山新開の林中に名前がわからないシソ科植物の一群が生えていた。花が欲しいと思い7月に行ってみたがだめで、10月の末に行きつてやっと花が咲いているのを見た。県北には多いようだがその他の地域では愛川町に産する。

11. キリ (ゴマノハグサ科)

深見町一ノ関の畑地の道路わきに目通り180cmの大木が一本ある。恐らく植えたものと思われるが一応仮目録には加えておいた。

12. ゴマノハグサ (ゴマノハグサ科)

下鶴間町内山新開のススキ原の中に2株生えていた。あまり見られない植物で、県内では相模原市に産する。

13. ハグロソウ (キツネノマゴ科)

外形はキツネノマゴに似ているが丈が高くなり葉も大きい。苞が目だって大きく、深見町城ヶ岡のやや湿った林中に生えている。県内では津久井町と秦野市に産する。

14. ニシキウツギ (スイカズラ科)

下和田町の農家の裏庭に2本あまり大きな木ではないがある。昔は野外に生えていたとのことであるが、今は見当たらない。一応仮目録には加えておいた。

15. アキノハハコグサ (キク科)

今ではあまり見かけないアキノハハコグサがつきみ野町の造成地に3株あった。ハハコグサは春から秋にかけて花が咲いているが、アキノハハコグサは茎の上部で分枝し、繖房状に多くの花をつけるので区別できる。県内では真鶴町に産するメモだけのようだが、もっと他地域にもあると思う。

16. ナギイカダ (ユリ科)

深見町一ノ関の畑地の土手に生えている。近くにはこれの生垣があるので、植えたものか逸出したものか不明であるが、野外に生えているということで仮目録に加えたほうが良いかどうか。

17. フサガヤツリ (カヤツリグサ科)

一見するとチャガヤツリのように見えるが、よく見ると種子のつき方がコゴメガヤツリのように複生している。コゴメガヤツリとチャガヤツリの雑種のようなものである。県内では初記録になると思うが、他の地域にもあるのではないかと。(私も初めて見たものであるから同定の間違いがないかどうか。)

18. その他

まだあるが最後に、上草柳調整池の近くに神奈川県指定天然記念物としてシラカシ林がある。調整池に面した低い斜面に帯状に延びており、昔の相模原台地の自然の面影を残している。また市内には、大和市指定天然記念物として、福田町にタブノキ、深見町にハルニレ、下和田町と福田町にケヤキがある。なお市で保存指定の生垣なども各地にある。大和市には、かつてはハナヤスリ、ワダソウ、ヤマトリカブト、マキエハギ、ホタルカズラ、オミナエシ、キキョウ、アマナ、オオバノトンボソウ、オニノヤガラなどがあつたというが今は見当たらない。また、リンドウ、ヤマユリ、オオバギボウシ、エビネ、ギンラン、キンラン、シュンラン、クマガイソウなどはほとんど見られなくなった。現在各地に見られるウバユリ、ヤブラン、キツネノカミソリ、ヤブミヨウガなども同じ運命をたどるのであろうか。

大和市の植物については、大和市教育研究所が中心になり、昭和42・43年と昭和54・55年の2回調査が行われ、昭和56年3月に自然学習基礎資料(大和の植物)が出版されたが残念なことに標本がない。昨年1年間で、この植物目録に記載されていないものが170種類ばかり見つかったが、一方では目録には載っているが未採集のものが190種類ばかりある。この中には同定上見方が違い重複するものもあると思うが標本がないので確認できない。

現在大和市は工場用地又は住宅地として開発途上にあり、貴重な自然が失われつつあるのは残念なことである。特に、つきみ野の造成地のカナビキソウ、ニガイチゴ、ワレモコウ、イヌハギ、ヒメハギ、アリノトウグサ、ノジトラノオ、オオフタバムグラ、カワラハハコ、アキノハハコグサなどは今までの調査ではここだけにしかないものであるが、これらの植物が近い将来なくなってしまうことが考えられる。また、道路工事などによって湿地が干上がり去年はあつたが今年は見られないというものもある。ハンゲショウ、タコノアシ、コケオトギリ、ツリフネソウ、タウコギ、キショウブなどがその例である。大和市では保存樹林の制度があり、市としても自然保護には力を入れているようだが、これとても私有地が多く、林中には工場や家庭の廃棄物が散乱しており、自動車置

場になったりして、興奥を放っている所もある。

一度失われた自然は取り返すことはできない。自然は現在の我々が子孫に残すことができる大事な遺産である。

市内には有識者もおられるわけであるから、行政側で自然に手を加える際にはそれらの人の意見を聞くというきめこまかな配慮がほしい。また、行政側の適切な指導

とあいまって、自然を守り残すのは我々の努めであるという強い自覚を市民が持つようにしていかないといけないと思う。

(附)本年度厚木市で採集したヒメイヌガラシは県内初記録になると思う。イヌガラシとスカシタゴボウとの雑種で、果実は小さく不稔。

(武井 尚)

## 1984年植物誌調査会合同調査速報

\*植物名は順不同です。

1. 4月6日

別所温泉：ランヨウアオイ、ヤマトアオダモ、アサダ。  
桃の木沢林道右手入：コハウチワカエデ、メツクバネウツギ、マメグミ、コカンスゲ、アワブキ、ミヤマハハソ、イヌザクラ、ハルユキノシタ。

2. 5月20日

開成町：ハタザオ、ホザキノフサモ、ヤナギモ、ミズタカモジ、セトガヤ、タチヤナギ。

小田原2、4（府川・和留沢）：カゴノキ、オオカナダモ、コバノハナイカダ、コバノコアカソ。

3. 6月9日

箱根乙女峠～金時山：シラヒゲソウ、イワキンバイ、ナガミノショウジョウソウ、サンショウバラ、フジイバラ、キヌゲシバヤナギ、ハコネガマズミ。

4. 6月17日

中津川：ベニシスラン、ウチワダイモンジソウ、ハルユキノシタ、サツキ、サガミニガナ。

津久井郡相模湖町新戸：コゴメヤナギ、ドクウツギ、ノアズキ、サクライカグマ。

津久井郡藤野町篠原：キバナアキギリ、タチドコロ。

5. 6月24日

足柄峠：イワウメツル、ゴンゲンスゲ。

南足柄、明星林道：サクライカグマ、イワヘゴ。

6. 6月30日

谷太郎林道～不動尻～大山狐出尾根：キヨスミウツボ、シロヤシオ、バイカツツジ、ウラジロノキ、クモキリソウ、ミヤマザクラ、ナンキンナナカマド、シロバナショウジョウバカマ、トウゴクサバノオ。

7. 9月15日

足柄峠～矢倉岳～酒水の滝：ウスバヤブマメ、ヒメキンミズヒキ、トゲキクアザミ、ヒメヒゴタイ、キントキヒゴタイ、マツムシソウ、オミナエシ、ミシマサイコ、イヌガンピ、ヤマアワ、ムラサキ、コオニユリ、ハンゴンソウ、マキエハギ。

8. 9月22日

和田峠～陣馬山：ヒキオコシ、メタカラコウ、マルバダケブキ、ヤエガワカンバ、シラカンバ、ノハラアザミ、キキョウ、ウスバヤブマメ、ツクシハギ、ウラジロノキ、ハクウンボク、セキヤノアキチヨウジ。

9. 9月30日

長者舎～犬越路：ハンカイシオガマ、ミヤマガンクビソウ、ミツモトソウ、サガミギク、ピランジ、サワグルミ、カツラ、アサダ、ハルニレ、ツガ、ホソエカエデ、オオモミジ、コハウチワカエデ、オオバアサガラ、ミヤマハハソ、アズマヤマアザミ、コカンスゲ、セキヤノアキチヨウジ、イヌヤマハッカ、ウラハグサ、イワニンジン、ダイモンジソウ、キダチネズミガヤ、サワダツ、オオバノキハダ、クサアジサイ、キンバイソウ、ホッスガヤ。

10. 10月10日

半原峠～経ヶ岳：クロウメモドキ、フィリヒナスミレ、ナガバノスミレサイシン、カシワバハグマ、シロバナハンショウヅル、シモバシラ、キクアザミ、センブリ、アズマヤマアザミ、タイアザミ、ホソエノアザミ、ノハラアザミ、ヒキオコシ、シバヤナギ、シラキ、クマノミズキ、オオモミジ、イワニンジン、シラネセンキュウ（カシ類少なし）。

半原峠～煤ヶ谷：シナノガキ、セキヤノアキチヨウジ、キバナアキギリ、ミヤマハハソ。

宮ヶ瀬、立岩：ホソバコンギク、ヤマミヅソバ、オオミヅソバ、ミヅソバ、アカシデ、ヤナギタデ、ヒメミカンソウ、ヤワラシダ、アイアスカイノデ、オオコアカソ、ウリカエデ、イワニンジン。

11. 10月13日

城山町、中平：シロバナサクラタデ、ミゾハコベ、アブノメ、カワラスガナ、タカアザミ、イヌコリヤナギ、オノエヤナギ。

中平、東林寺：カゴノキ（大樹）。

城山町、小倉山：エドヒガン（栽）、イヌザクラ（多）、ウワミズザクラ、ホソエノアザミ？、オオバチドメ、キ

ジョラン、オニカナワラビ、リョウメンシダ、クマワラビ、ヒメワラビ、ガクウツギ、モミ、シュウブソウ、イイギリ(多)、シナノガキ、クチャナギ、シバヤナギ、イヌザンショウ、カラスザンショウ、フエザンショウ、キハギ、マルバハギ、アキノハハコグサ、クララ、センダン(栽→逸出)、ポントクタデ、ミヤマフユイチゴ、クモノスシダ。

山頂付近：ゴンズイ、コバノガマズミ、マルバアオダモ、ツクバネウツギ、ネジキ、チゴユリ、シタキツルウメモドキ(オオー)、フジキ、イヌエンジュ。

(カエデ類認めず)

12. 10月28日

西丹沢、中川川西沢：ヤシャイノデ、オニイノデ、エビラシダ、カラクサイヌワラビ、ミヤマシケシダ、ヘビノネゴザ、キヨタキシダ、イヌコリヤナギ、バッコヤナギ、オノエヤナギ、シバヤナギ、ガクウツギ、スノキ、オオツルウメモドキ、イロハカエデ、オオモミジ、メグスリノキ、キハギ、イタヤカエデ、オニイタヤ、ウラゲエン

コウカエデ、ホソエカエデ、チドリノキ、シラキ、ツリバナ、サワダツ、タニソバ、ミヤマタニソバ、ヤマミヅソバ、イヌシデ、アカシデ、クマシデ、サワシバ、ウラジロガシ、アカガシ、ツクバネガシ、エゾエノキ、オオバアサガラ、サンシキウツギ、イワシャジン(多)、ダイモンジソウ、カナウツギ、フジセンニンソウ。

世附、浅瀬、大又沢：コバノヒノキシダ、イロハカエデ、オオモミジ、オニイタヤ、シバヤナギ(ホソバシバヤナギ?シライヤナギ?的なものを含む)。

13. 11月11日

小田原市 根府川付近：ハマヤブマオ、ハコネウツギ、オオマツヨイグサなど、ありふれたものばかり。ミカン園は極度にフロラの貧困化をまねくものと見られる。

白銀林道付近：アズマヤマアザミ、オトメアオイ、クサアジサイ(これについては別に報告します)、ナガバヤブマオ、スバシリトリカブト、ナガバノスミレサイシン、セキヤノアキチヨウジ、それにイズカニコウモリ!!!。

(長谷川義人)



かながわの稀産・貴重植物 (3)

ヤナギイノコズチ

*Achyranthes longifolia* Makino

ヒカゲイノコズチに似て葉が細長く、表面に光沢がある。関東以南に分布し、茨城県あたりまで報告がある。静岡県、千葉県、東京都にはかなりおおくの産地が知られているが、どうしたものか神奈川県からはほとんど報告がなかった。今年高橋秀男氏とともに厚木市の調査中

猿が島の段丘崖で見つけた。そこはケヤキのまじったスギの植林で、ヒカゲイノコズチもみられるが、ヤナギイノコズチはそれよりも、もっと日蔭の場所に生えていた。

(大場達之)

本号の編集は横浜・川崎ブロック